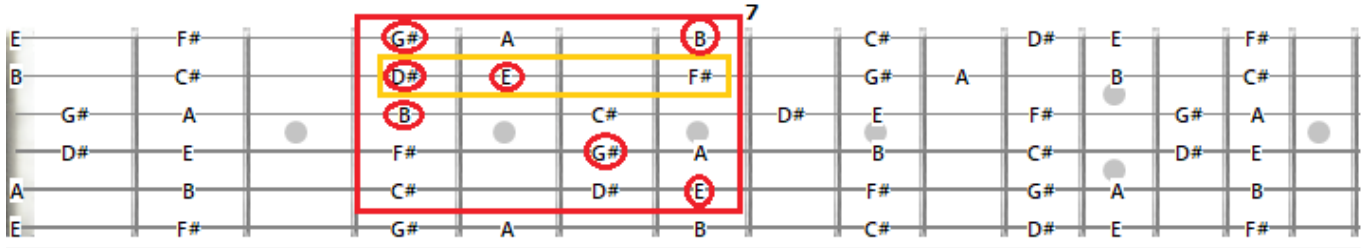


※今回、譜例 1(EM7、5 弦ルート)の指板図と音の配置



※扱っているコードが違うので、音名ではなく、弾いている音の配置(赤丸の並び)とインターバルで確認してみてください。

他の教材でもお話ししていることですが、この2~3弦間でのみ発生するズレを理解できていると、スケールでもコードでも、構造が把握しやすくなります。

今はEM7のアルペジオを弾いていますが、5弦15フレットのC音などをルートに、CM7で今回の譜例1の形を試してみても理解が深まるかと思います。

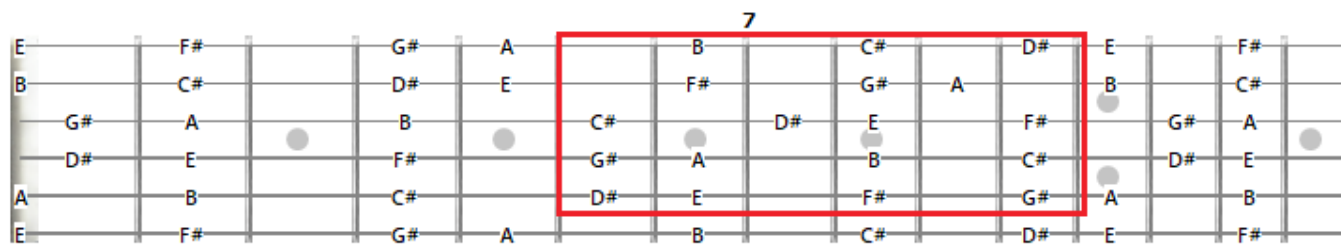
ちなみに、譜例1の3小節目のように、5~1弦でアルペジオを弾き切った後、さらに低音弦側で弾けるXM7のコードトーンを追ったパターンを乗せています。

今の段階で、全て無理に覚える必要はありませんが、指板の理解としては重要なので、もし、余裕があれば、触ってみてください。

それでは、次は、ルートから真下(高音弦側)に降りるように見る形です。

譜例 2、EM7、5 弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その 2

スケールポジション的にはこの辺りですね。



3弦の8→9フレットの場所は、中指でスライドにしても良いですね。(※もちろん普通にピッキングしても良い)

指使いに好みが出る場所かと思imasるので、譜例を参考に自分が弾きやすいと思う形を試してみてください。

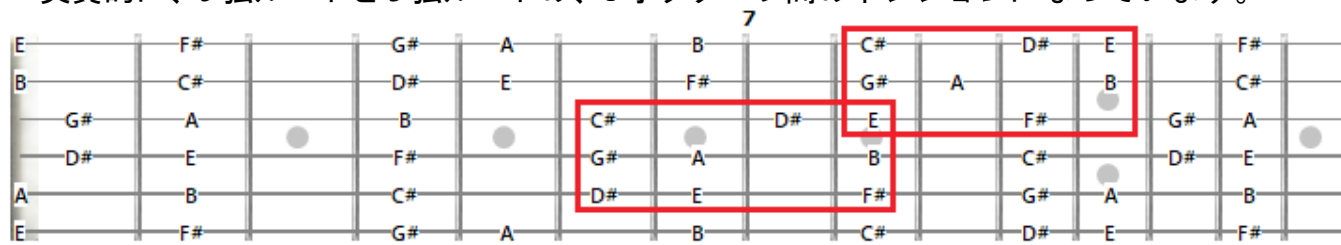
後は、全く同じ形のアルペジオでも、フレットの間隔が広い低音弦側で弾くのと、フレットの間隔が狭い高音弦側で弾くのでは、弾きやすい指使いが変わる場合があります。

そういった場合、どちらの場合はどのような指使いで弾くのか？を自分なりに決めておくのもいいかと思imas。

では、次の形は、譜例2周辺の音の並びを基準に、1オクターブごとに弾き分けたものです。

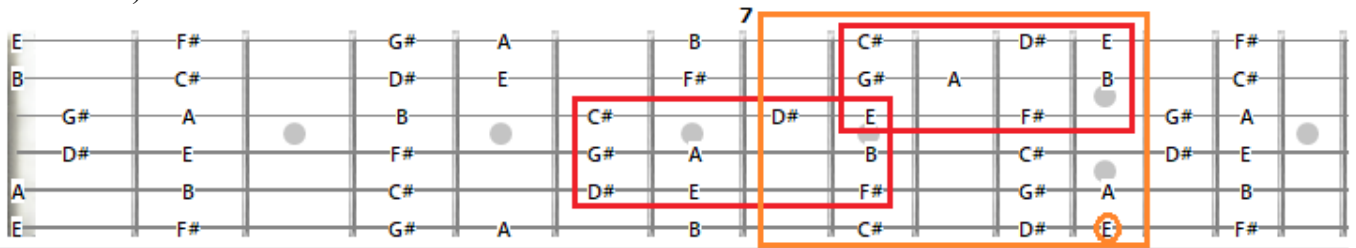
譜例3、EM7、5弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その3

実質的に、5弦ルートと3弦ルートの、1オクターブ間のポジションになっています。



この3弦にルートを見た形も、他の教材で扱っているのを見かけた時に照らし合わせてみてください。

ちなみに、この3弦ルートは、6弦にルートを見た時(前回テキストの譜例1のポジション)の下部と一致します。



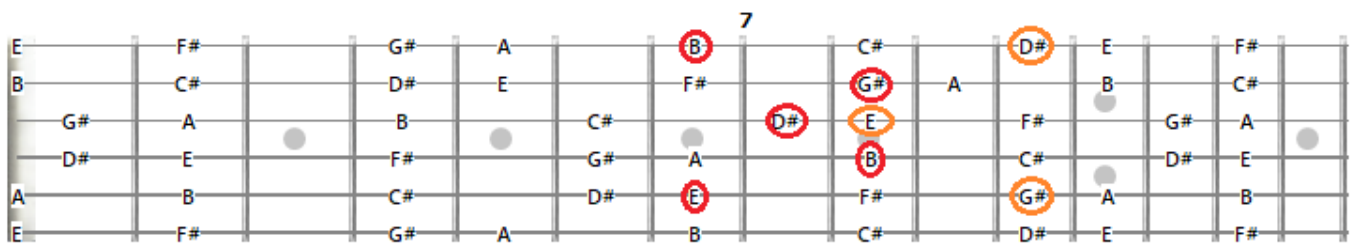
(※黄枠→E ジャースケール6弦トニックポジション)

この辺りの関係性も、記憶の補助として活用していきましょう。

続いて4つ目は、5弦ルートの XM7 コードのヴォイシングを基準にしたような形になります。

譜例4、EM7、5弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その4

元になっている形をこの様に見るとわかりやすいでしょう。



(※赤丸→EM7の代表的なヴォイシング、黄丸→それ以外のEM7のコードトーン)

この形は、譜例にはしていませんが、最後の1弦11フレット(D#音→M7th)まで弾いた後、12フレット(E音→root)まで弾くと、ちょうど2オクターブ分の範囲になります。

フレーズとして使う時は、そのフレットまで進む可能性も高いので、こちらも余裕があったら覚えておいてください。(※実は譜例2の形も、同じように2オクターブ分進めます)

と、ということで、今回最後になるのは、ルート音から1オクターブごとにボディ側に進むような形で展開する形ですね。

譜例5、EM7、5弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その5

仮に3弦にルートを見て何かを弾く場合、左手のポジション移動なしに、ルート音(3弦)からルート音(1弦)まで進む形としては、譜例3のものと、こちらが代表的なものになるかと思います。

とは言え、この3弦ルートのポジションはフレーズとしてはあまり使わないかもしれません。

ただ、コードヴォイシングやスケールの把握の観点からも、ギターの構造理解としては、大事なものなので、音の配置感覚をつかんでおきましょう。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼